

今年度の方針

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

泉 博朗

(大阪帝塚山RC)



1. 2014年国際協議会

2014年1月12日、メキシコに近く、すがすがしい気候のアメリカ・サンディエゴにて国際協議会が執り行われました。537地区のガバナーエレクトの皆様が、配偶者の皆様を伴って世界各国より集まりました。

これは、次年度のガバナーとしての研修を受けるためです。日本からは、お一人を除き、33地区のガバナーエレクトの皆様が参集いたしました。まず、田中作次R I直前会長から歓迎とこれからの心構えのお言葉をいただきました。

2日目の本会議の中で、R I 会長エレクトのゲイリー・ホアン氏より、次年度のテーマが発表されました。テーマは、

「LIGHT UP ROTARY」 「ロータリーに輝きを」
であります。これは孔子の言葉の中の「暗闇で黙って我慢するより、一本でもローソクを灯した方がよい」と言う言葉から考えられたとの事です。

そして、ゲイリー・ホアン氏は「世界には問題が山積みとなっており、大勢の人が助けを必要としています。しかし“自分にできることはない”と言って何もせずにただ座っている人が大勢います。これでは何もかも暗闇のままです。」更に「ローソクを灯するのがロータリーです。私が一本、あなたが一本、こうして120万の会員全員がローソクを灯すと、世界を光で輝かせる事が出来るのです。」と続けられました。

2. R I の戦略計画に照らした

ゲイリー・ホアン氏の具体的な行動指針

2010年7月に改訂されたR I 戦略計画によれば、3つの優先項目、つまり優先的に取り組むべき項目、が定められています。それは、

- (1) クラブのサポートと強化
- (2) 人道的奉仕の重点化と増加
- (3) 公共イメージと認知度の向上

の3項目です。

そして、優先項目(2)の人道的奉仕活動に関しては、特に以下の6分野に重点を置いた(重点項目)活動が推奨されています。

1. 平和と紛争予防/紛争解決
2. 疾病予防と治療

3. 水と衛生
4. 母子の健康
5. 基本的教育と識字率の向上
6. 経済と地域社会の発展

そこで、2014-15年度R I 会長のゲイリー・ホアン氏はその具体的な行動として、R I 戦略計画のそれぞれ3つの優先項目に沿った

- 会員増強の推進
- 上記6つの重点項目(分野)のうち少なくともひとつの人道的奉仕活動の実施
- ロータリーファミリーによる奉仕活動とロータリーデーの実施

を挙げられました。

ゲイリー・ホアン氏は「少なくとも一つのロータリー重点分野に関連する、地域あるいは海外での人道的奉仕プロジェクトに参加して下さい。」と訴えられておられます。ロータリーファミリーとはロータリアンではないがロータリープログラムに関わった方々のことでもあります。具体的には財団学友、ローターアクター、インターアクター、青少年交換生、ローテックス、ライラリアン、米山奨学生、米山学友の皆様であります。

そう言う人達と一緒に奉仕活動を実施して下さいとのことでもあります。そして、『地域あるいは地区で「ロータリーデー」を実施して下さい。そしてロータリアンではない人達にロータリーの認知度の向上を計ってください。』との事でありました。

3. 2014-15年度地区方針

ゲイリー・ホアン氏のテーマを受けて地区の方針を次のように決定しました。LIGHT UPには照らすという意味もありますが、自ら輝くという意味もあります。ゲイリー・ホアン氏はロータリアンひとりひとりが自ら輝くことによってロータリー全体が輝き、その輝きで全世界を照らすという意味をこめて「LIGHT UP ROTARY」をテーマにされたと思います。

「ロータリアンのおひとり、おひとりが輝くことによって地域を輝かせ、ひいては世の中を明るくすることができる。そして、それらの積み重ねが希望に満ちた未来のために必要だ。」という気持ちを持つことが大切なことではないでしょうか。そしてロータリーはそれが出来る

組織であることは疑う余地もないことであります。

ポール・ハリス氏は1911年1月創刊の「ザ・ナショナル・ロータリアン」誌の中で、「もし神の摂理によって私がどこかのコロシラムの舞台上に立たされて、皆様と向かい合い、瞬時のためらいも許されず、あらんかぎりの声で何か一言、言えと告げられたなら、「寛容」と大声で叫ぶであります。」と申されておられます。私たちがロータリーで学んだことはこの「寛容の精神」であります。いろいろなプログラムに参加しているうちに、知らず知らずこの寛容の精神を学んでいるのです。この「寛容の精神」を具現化していただくために、「親睦」を燃料として、「奉仕」という炎を燃やそうではありませんか。「まずは皆様の地域、そして、各クラブの連携で世界を照らしましょう。希望に満ちた未来のために。」というのがゲイリー・ホァン氏のテーマであると感じております。

そこで、R I 第2660地区における具体的な地区テーマは、『ひとりひとりの輝きで、

あなたの地域を輝かそう』

と致します。副題として「LIGHT UP OSAKA」のように、LIGHT UP に続けて皆様の地域名をつけて使用していただいてもよいでしょう。

ロータリー活動において重要な項目は「親睦」と「奉仕」であります。「親睦」と「奉仕」はロータリーの両輪と言われていますが、むしろ「親睦」は石垣、土台であり、「奉仕」はその上に立つお城、建物であると思います。いくら立派な建物でも、いくら丹精をこめた建物でも、土台が弱ければ残念な結果になります。また、土台だけが強くても建物がなければ何の役にも立ちません。しかし、りっぱな石垣があれば、それに見合ったお城を建てたいと思うのも自然な事です。ロータリーが100年もの永きにわたり存続している理由は、この「親睦、交友」という土台がしっかりとっていて、「奉仕」という立派な建物があるからではないでしょうか。そのしっかりとした土台、目的を果たす立派な建物を、皆様と共により一層よくするためには、どのようにしたらよいのでしょうか。

4. 具体的な方針

(a) 会員の増強

地区の役割として、まず取り組まなければならないことは、優先項目(1)の具体策としてゲイリー・ホァン氏

が申された会員の増強であります。ロータリーは組織である以上、適正な増強は必要であります。具体的には、すべてのクラブで純増1名を実現していただきたいと思っております。すべてのクラブであります。純増1名を実現できれば、必ず、純増2名、3名を実現できます。そのために、すべての活動を会員の増強につなげていただきたいと思っています。特に志の高い方々にロータリー活動の素晴らしさを伝えて下さい。

(b) IMの活用

IMは近隣のクラブの皆様と親睦を深める貴重な行事です。また自由度の高い行事であります。ホストクラブの皆様の思いを、このIMを通じて、近隣のクラブの皆様に伝えていただきたいのです。R I 戦略計画の中で「中核となる価値観」として提示されている、親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップを基本的な指針としていただきたいと思います。

(c) エンドポリオへの協力

ポリオはあと少しで撲滅できるところまで来ました。しかし、今、気を許しますと元の木阿弥になってしまいます。より一層のご協力をお願いいたします。

(d) 寄付目標の達成

米山記念奨学会へ一人当たり3万円(普通寄付5,000円、特別寄付25,000円)、ロータリー財団への年次寄付一人当たり150USD、エンドポリオに一人当たり50USDをお願いいたします。

(e) 東日本大震災復興支援の継続

東日本への復興支援を風化することなく、継続をお願いいたします。地区の災害支援基金の募金は終結いたし、補助金も残り少なくなりましたが、クラブ単位で復興支援をお願いいたします。地区としては、情報の受発信を積極的に行います。

(f) 南海トラフ地震への対策

南海トラフ地震への対策を検討することをお願いいたします。恐怖心を煽るのではなく、冷静に情報を収集して、状況を把握し、現時点でどのような備えが必要かを検討していただきたいと思います。

(g) クラブ危機管理の検討

クラブの様々な危機管理に対する対処をご検討ください。地区では、危機管理委員会において具体的な検討段階に入っております。お問い合わせは事務局までお願い

いたします。

(h) 規定審議会への提案

次年度は、2016年に行われます規定審議会への提案の年度であります。手続き要覧等、諸規定に変更、追加を要望される場合は、クラブ単位で2014年10月末日までにご提案をお願いいたします。詳細は地区事務局までお問い合わせ願います。

(i) ロータリーデーの実施

ゲイリー・ホァン氏が優先項目(3)の具体策として挙げられたように、ロータリーの認知度向上のために、クラブ単位で「ロータリーデー」を実施して下さい。

地域の市民祭りなどに積極的に参加し、ロータリーの認知度の向上を計ってください。具体的には、とりたてて新たに企画するのではなく、従来 of 行事を「ロータリーデー」として外部に対してPRしていただければと思います。例えば、市民祭り、区民祭りに参加される場合、ロータリーの活動である事をPRしていただければよいのです。ロータリー旗をかかげるとか、ロータリーのジャンパーを着るとか、要はロータリーが奉仕活動をしているというPRをしていただきたいということです。

「ロータリーデー」として地域の方を例会にご招待するのも方法です。卓話を地域の方々にお願いするのもいいでしょう。特に商工会議所の関係者、警察署、消防署の方々に卓話をお願いするのも方法ではないでしょうか。外部の人をお呼びすることは出席率の向上のキッカケになるのかもしれない。

また、会員の推薦する地域の方々を表彰するのも方法でありましょう。要は、いろいろな形で外部の方々と連携を深めていただき、認知度の向上を計っていただければと思っております。

「ロータリーデー」につきましては、R I 会長推奨事業として、「地区としても実施したい」と思っておりますので、積極的にご協力をお願いいたします。

(j) 地域への奉仕、地域の活性化

地域への奉仕、地域の活性化のために、クラブ単位でフォーラム、炉辺会議等を実施して会員の英知を集めて下さい。そして具体的に、地域に対して奉仕活動を行い、地域の方々と交流を計ってください。結果として、ロータリーの認知度が向上し、会員の増強が達成されることが考えられます。せっかく色々と特色のあるクラブが揃っている訳ですので、そのクラブに合った方法で奉仕活動をしていただきたいと思います。クラブの特色を活かしていただければ、地区全体として様々な形の幅広い奉仕活動が実現できます。

会員の皆様が輝いてこそそのロータリーであります。ロータリーは会員であるあなたのためにあるのです。奉仕を行うことが親睦を深めることにつながることを、数多く経験してきました。クラブの活性化は、「いかにやりがいのある奉仕活動をするか」に尽きるのではないのでしょうか。

楽しいロータリー

待ちどおしいロータリー

わくわくするロータリー

をめざして皆様と共にがんばりましょう。

